

誰でもできる聖書の正しい解釈方法

今日、世界中にキリスト教団体は 3500 以上あると言われていています。しかし、キリスト教信仰の物差しであり、よりどころであり、神の言葉として信頼されている聖書は一つであるのに、なぜこんなにも多くの教会があり、教会によって異なる理解や解釈があるのでしょうか。(絶対的な権威のある経典のようなものがない宗教ならば、いろんな教えが起こっても不思議ではありません。)

今日、この問題について多くのキリスト教会は「それは解釈の問題である」「単に、一人ひとりの見解の相違である」と答えます。ですから、同じ聖書の箇所を読んでも、教会やクリスチャンによって、それぞれ異なる解釈が出てくるのです。そして、それでも問題ないという態度を持っているのです。挙句の果てに、今日では 3500 以上のキリスト教会を一つにまとめるために、聖書の共通の理解を造り出そうとする動きさえあります。

これは正しくありません。悪魔はこのようにしてキリスト教会が神の言葉を保有し、神の言葉を宣べ伝えていると誤解させ、信者にも神の言葉を信じていると誤解させ、人々を永遠の滅びに導こうとしているのです。私たちは聖書の解釈には、唯一の正しい方法しかないということを共に学びましょう。それは真のクリスチャンたち、そしてマルチン・ルターたち宗教改革者たちが行ってきた聖書の読み方であり、救いに至る神の恵みを受け取る唯一の方法でもあります。

「解釈」には、難しい能力が要求されていません。聖書や学校の教科書を読む時、試験問題を解く時だけに、解釈する能力を活動しているわけでもありません。日常生活で、私たちは頻繁にこの解釈すると言う能力を用いており、解釈することができなければ、この世で生きていくことができません。新聞や本、雑誌やメール、広告や手紙、教科書や聖書の中に「書かれた言葉」を解釈します。または会話などの「語られた言葉」をいつも解釈しています。私たちは同じ時代、同じ言葉、同じ文化の中に生きているので、日常生活で互いの言葉を解釈することは、さほど難しくありません。しかし、聖書の正しい解釈を発見するには、この点で二つの問題があります。

聖書を解釈しずらくする二つの問題

「言葉の違い」 - 聖書はヘブライ語、ギリシア語で書かれました。日本語ではこれらの原語を正確に現わせませんし、日本語にはない言葉もあります。言語の相違という問題は、相手のことばの意味が、ぼんやりとしか伝わらなくさせます。

「文化の違い」 - 2015 年の日本とはるか 4000 年前イスラエルやエジプトでは、気候、経済、政治、社会、植物や動物、衣服や食べ物、農業、酪農などが全然違います。(十字架での処刑、一日の始まり、交渉場所、契約方法、羊飼いの放牧、塩の使用方法など) 多くの文化や動物、植物、食べ物などはすでに「失われて」おり、まったく「わからない」状態をもたらすかもしれません。これらの二つの違いによって、私たちの日常会話、現代の小説のようにスムーズに解釈することができないのは事実です。しかし、これからお伝えする三つの問題は、聖書を正しく解釈する上で絶対に必要な方法であり、聖書独特の解釈方法です。

聖書を解釈する絶対に必要な四つの条件

「霊的な違い」 - 主なる神は、神の言葉を聞く人、読む人に、「信じる」信仰を要求しています。これができなければ言語と文化の相違を埋めたとしても、決して聖書を正しく理解することができません。なぜならば聖書自身に次のように書かれています。

「生まれながらの人間は、神の御霊に属することを受け入れません。それらは彼には愚かなことだからです。また、それを悟ることができません。なぜなら、御霊のことは御霊によってわかまえるものだからです。」(1 コリント 2 章 14 節)

つまり、聖書に書かれている様々な奇跡、たとえば神が処女から生まれた、死人がよみがえった、海が裂けて人々が海底を通じて対岸に渡った、世界中が水に覆われた、このような神のなさった奇跡、また神がイエス・キリストを通して与えられる全ての約束を疑う人、受け入れない人は、決して聖書を正しく理解できません。神の力と知恵は人間のそれをはるかにしのぐので、人間の常識と知恵で聖書を読む人は、決して聖書を理解できません。正しく理解できないばかりか、神の与えようとされる恵みと祝福を受け取ることができません。なぜならば、神はその御言葉によって、御言葉をとおして、永遠のいのち、罪の赦し、よみがえり、天国の永住権、慰めと愛を人間に分け合おうと決められたからです。

「私(パウロ)は福音を恥とは思いません。福音は、ユダヤ人をはじめギリシア人にも、信じる全ての人にとって、救いを得させる

神の力です。なぜなら、福音のうちには神の義が啓示されていて、その義は、信仰に始まり、信仰に進ませるからです。『義人は信仰によって生きる』と書いてあるとおりです。』(ローマ 1 章 16,17 節)

もちろん、神を信じない人でも、聖書を読むことができます。そして、表面的に理解することができますが、神を信じる人のように理解することができません。理解できないことよりもひどいのは、そのような人は、自分が理解できるように自分勝手な解釈をもって、神の言葉の意味を変えてしまうのです。

もちろん、神の言葉を純粋に信じていても、神のことは理解できないことが多いです。(たとえば終わりの日、三位一体なる神、天地創造) 不信仰者は分からない箇所を何とかして人間の理性に合うように「加工」しますが、主を信頼する人は「主のおっしゃる通りになりますように」(アーメン)という信仰をもって、理解できない神の言葉を「受け入れる」のです。

「聖書は全て神の言葉であると信頼すること」 - 「聖書は全て神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練のために有益です」(2 テモテ 3 章 16 節) 聖書は 66 巻からなり、1500 年の間に 40 人以上の様々な人が執筆に携わりました。しかし、神が一人ひとりに書くべき内容を啓示し、彼らの特徴を生かしながら神の言葉を代筆させた聖書は述べています。もし、これが人間によって書かれた書物ならば、66 巻には全くの統一性はなく、内容はバラバラになります。しかし、聖書には驚くほどに統一性と内容の一致があります。ですから、聖書は 1 コリント 2 章 14 節に「御霊のことは御霊によってわきまえる」と書かれているように、聖書の分からない箇所は、聖書の他の分かりやすい箇所によって明らかにされます。これが初めから最後まで聖書が一貫した書物、そして同じ書き手であるからできる独特の解釈方法なのです。

「聖書はイエス・キリスト中心」 - 聖書の 66 巻はそれぞれ違う時代に書かれ、違う背景を持ち、異なる人によって書かれましたが、救い主イエス・キリストが中心テーマです。マルチン・ルターは聖書からイエス・キリストを除いたら、何も残らないと主張しています。ということは、聖書勉強会や説教が、救い主イエス・キリストを土台、中心にしないならば、それは無駄話、無駄な時間になると言うことです。聖書を読む時、常に救い主イエス・キリストというメガネをとおして御言葉を読む必要があるのです。

「意図を知ること」 最後の解釈の最重要な鍵は、書き手(語り手)の意図を受け入れることです。書き手がどんな意志を持って、この手紙を書いたのかを知ることが、手紙を正しく理解するためにもっとも大事なことです。ヨハネ 20 章 31 節に、神が聖書を書き記させ、今日にも様々な言語に訳し、残してくださっている意志(御心)がはっきりと書かれています。

「しかし、これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるため、また、あなたがたが信じて、イエスのみによっていのちを得るためである。」

この御言葉の中に、聖書を正しく理解するキーワードがいくつも盛り込まれています。聖書はイエス・キリスト中心であり、信じて読み、信じて聞かなくてはならず、そしてイエスによってもたらされる永遠のいのち、真のいのちを得させるために読まれる、語られる、聞かされるべき書物なのです。私たちキリスト教会が金もうけのため、信者獲得のため、人気を得るため、道徳を教えるために、聖書を用いることは正しい方法ではありません。私たちが人生を豊かにするため、西洋文化を知るため、世界の歴史を知るため、ベストセラーを読むという意識で聖書に触れる人は、聖書の本質を理解することも、何も得ることができません。

ルターの時代以前は、教会によって一般の人は聖書を読むことを禁じられ、理解できない言葉で聞かされていました。教会と教皇だけが聖書を正しく解釈することができるかと教えられてきました。しかし、ルターは今日学んだ前提をもって聖書を読むならば、聖書は全く難しい本ではないと述べています。私たちが日常会話や読書ができるならば、誰でも聖書を読んで理解することができるのです。(ユダヤ人は 5 歳から聖書を読み、学びました。)

私たちに真のいのちを持って欲しいと望んでいる神が、神の御心や救いの道を難解にしたり、隠すでしょうか。主はこの御心と賜物を暗い洞窟の奥深くに隠されているのではなく、公の広場に持ち出され、明らかに示されているのだとルターは述べています。

「あなたの御言葉は、私の足のともしび、私の道の光です。」(詩篇 119 編 105 節)とあるように、神の言葉を正しく解釈して、天国への永遠の道、救い主イエス・キリストの愛がはっきりあなたの前に示されますように。最も偉大な賜物である罪の赦しや永遠のいのち、永遠の罰からの救いが確実にあなたのものとなるように。アーメン